

世界中が互いにたすけ合って 「陽気ぐらし」が私たちの願い

人間の身体は、親神様からの「借り物」ですが、心は自由につかうことができます。

天理教の教祖は、我が身勝手に自分中心の心づかいをほこり（埃）と教えられました。

埃は知らない間に積み、小さなものなら簡単にきれいに払うことができますが、積み重ねると、取り除きにくくなるものです。

私たちの心も同じです。心の中にほこりが積み重ねると、心は曇って、本来の明るさを失い、「陽気ぐらし」に向かうことができなくなります。

心のほこりを掃除する手がかりとして「八つのほこり」を教えてください。



物を大切に
しましょう。



天の恵みに感謝して
いただきます



人の物を見て欲しがり
まだ使える物であっても
平気で捨ててしまう。

あるにもかかわらず
贅沢な物を食べたい
高価なものが欲しい

「八つのほこり」

きしい ほしい にくい がわい
うらみ はらだち よく こうまん

元気が一番
ありがたい

金銭や物が
十分ないと嘆く

働いた以上に収入を
貰いたい。楽をして、
人一倍貰いたい。

「働くというのは、はたはたの
者を楽にするから、はたらく
と言うのや。」
(注)

ほしいとは・・・

心も尽くさず、身も働かずして、金銭や物を欲しがる心、あるが上にも欲しがる心はほこり。
人のために幸せになってほしい、たすかってほしいという心遣いはほこりではありません。

(注)『教祖伝説』編
一九七『働く手は』

TENRIKYO

「 One World One Family 」

世界中の人間は一つの家族 たすけ合って困難を乗り越えよう

新型コロナウイルスは世界中へ広がり、いつどこで感染するか分からない状況になっています。国内では、感染予防に対応した“新しい生活様式”への変化が求められていますが、それだけでなく、私たちの心のありようも変えていく必要があるでしょう。

マスクをつけ、人との距離をとる、手洗いを励行するなどの対策を継続して、ウイルス感染を広げないようにするためには、なによりも人と人がお互いに思いやり、共にたすけ合っていく“優しい心”が欠かせません。

社会的距離を取っても、心の距離は決して遠ざけない。むしろ心の距離が

より一層近づくように、周囲の人を思いやり、温かい言葉をかけ合うことが、コロナ禍を終息へ向かわせる鍵になると私たちは考えています。

世界中の人間は一つの家族です。
“優しい心”でつながり合って、
困難を乗り越えていきましょう。

